（若狭守護　若狭武田氏）

若狭武田家：若狭国の守護

概要

若狭武田家は、15 世紀半ばから 16 世紀後半にかけて若狭国を治めました。彼らは、第 6 代足利将軍であった足利義教（1394 年～1441 年）から守護（地方の知事）に任命され、16 世紀初頭に小浜に後瀬山城を築城するまでは京都から国を治めた。若狭武田家は、彼らの戦略の研究や戦闘の技だけでなく、彼らが和歌や連歌という詩などの芸術を支援したことでも知られていました。

もっと詳しく知る

武田家の由来と分家

武田家の本家は、日本の第 56 代天皇である清和天皇（850 年～881 年）の子孫であると言われ、また、平安時代（794 年～1185 年）の最も有名な武士の何人かを生み出した源氏の内の清和源氏系の子孫であると言われています。当初は甲斐国（現在の山梨県）の守護を務めました。1221 年、武田信光（1162 年～1248 年）が安芸国（現在の広島県西部）の守護に任命され、安芸武田家という分家が誕生しました。

1440 年、将軍・足利義教の命により、安芸武田家の武田信栄（1413 年～1440 年）は、当時、若狭国の守護として務めていた一色家を討ちました。その功績により、信栄は若狭守護職を拝領し、これが若狭武田家という分家の起源となりました。

若狭国守護の職

他の多くの守護と同様に、若狭武田家も最初は若狭国に住んでいませんでした。その肩書きにもかかわらず、守護は主に、さまざまな行事に参加でき、宮廷での義務を果たすことができる京都に居住し、地方の統治は代理人（守護代）に任せました。しかし、応仁の乱が 1467 年から 1477 年にかけて都を荒廃させた後、若狭武田家は若狭への移住の準備を始めました。

1522 年、後瀬山に後瀬山城が完成するのに伴い、6 代当主であった武田元光（1494 年～1551 年）が山麓に公邸を構えました。彼の家臣は、近隣地域からの攻撃から守るために、若狭国中の戦略的な位置により小さな城を建設しました。

芸術と文化の支援

若狭武田家は長年京都に拠点を置いていたため、京の文化人とよく交流がありました。若狭国に移

った後も、若狭武田家は著名な歌人、絵師、学者、禅僧を邸宅に招いて、若狭武田家が統治する間、この地域に芸術と仏教信仰を広めました。

若狭武田家の衰退

16 世紀後半になると若狭武田家の影響力は弱まり、足利幕府と強力な武将であった織田信長（1534 年～1582 年）との勢力争いの際に、隣国の越前国（現在の福井県東部）の朝倉家に取って代わられました。その結果、九代当主であった武田元明（たけだもとあき）（1552 年～1582 年）が朝倉家に拘留されました。信長が勝利した後、彼は最終的に若狭に戻されましたが、1573 年に信長の武将の一人である丹羽長秀（にわながひで）（1535 年～1585 年）に取って代わられました。

展示品

武田若狭の家系図の隣には、1574 年の武田元光の肖像画のレプリカがあり、彼が馬に乗って流鏑馬の衣装を着ている様子が描かれています。若狭武田家は、なまくらの矢で場内の中を走る犬を撃つことなどを含む武道の訓練の一種である、犬追物（いぬおうもの）の稽古を継承したことで知られていました。寛永年間（1624 年～1645 年）にまで遡ると考えられている武田式の犬追物の入門書の一つの巻は、詳細な注記とヒントが書かれた絵があるページが開かれています。1528 年に明通寺に送られた武田元光の花押の入った文書は、寺院の特定の税を免除し、外部の者が境内の木材を伐採することや宿泊のために寺院の建物を徴用することを禁止しています。元光の和歌が掛け軸として飾られており、武田若狭家の文芸の腕前を示しています。